

【公開文書】

臨床研究「ヌードラット末梢神経障害に対するヒト歯髄幹細胞の神経再生効果」について

筑波大学附属病院歯科口腔外科では、日本歯科大学生命歯学部 NDU 生命科学講座と共同で標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の意義, 目的, 方法

組織に存在する幹細胞は骨や神経, 筋肉などの細胞に育てられることがわかっており, その幹細胞を利用した研究は目覚ましい発展を遂げています。筑波大学附属病院では, そのなかでも歯の内部に存在する歯髄の幹細胞を利用し, 神経再生の研究を行っています。

日本歯科大学にて抜歯した歯を分割し, その中の歯髄組織を採取します。歯髄組織より幹細胞を取り出し神経細胞に成長させ, その神経細胞を筑波大学に輸送します。筑波大学にてラットの坐骨神経を切断し, 神経細胞入れたコラーゲンチューブで再建することにより, 切断した神経の再生を観察することをこの臨床研究の目的としています。

② 利用する試料

2013年4月～2017年9月までに日本歯科大学附属病院において抜歯治療を受け, 臨床研究についての説明を行い同意を頂いた患者様の抜去歯

③ 利用する情報

該当なし

④ 利用する者の範囲

筑波大学附属病院歯科 歯科口腔外科 内田文彦, 飯泉 成一郎, 高岡 昇平

⑤ 試料・情報の管理について責任を有する者

柳川徹 所属：筑波大学医学医療系 顎口腔外科学 准教授